

2026年度 世田谷トラストまちづくり活動助成事業

審査講評

〇〇コラボ部門

< 5-1 流域系探求フェス推進委員会 >

IBASHO & こどものためのウェルネスサークル

子どもも大人も忙しい世の中です。両団体の「視点の面白さ」を生かし、活動への参加を通じて「遊び」が「学び」であることを知り、暮らしているまちを楽しめる子どもと大人が増えますように。流域のつながりを生かしながら、活動と地域とのタッチポイントが増えること、また、実践の知見が積み上がることを期待しています。

< 5-2 働く私の町の伴走者プロジェクト-地域再接続型・未病予防支援モデル構築事業->

一般社団法人じゅんぐり & キャリオリ

育児休業から復職後に地域との接点が途切れてしまうという、これまで見過ごされやすかった課題に着目した視点を高く評価しました。

子育て支援というと、どうしても「子どものため」「困っている人を支える」という視点になりがちですが、本事業では母親自身を一人の地域生活者として捉え、ライフステージが変化しても地域との関係性を持ち続けられる仕組みをつくろうとしている点に大きな可能性を感じました。

また、地域にはすでに多様な場所や人材、経験があります。しかし、それぞれが分断された状態では十分に力を発揮することができません。今回、地域の居場所機能を持つじゅんぐりと専門性を持つキャリオリが連携することで、新しいサービスをつくるのではなく、地域にある資源をつなぎ直そうとしている点も評価しました。

本当の意味で安心して暮らせる地域とは、支援する人と支援される人が固定されるのではなく、それぞれの経験や思いが誰かの力になり、お互いに支え合える関係性がある地域だと思います。この取り組みが、課題が起きてから対応する仕組みではなく、日常の小さなつながりの中で自然と支え合える新しい地域モデルへ育っていくことを期待しています。